

WITH コロナ時代における情報伝達について

～Zoomによる経営研修会の開催～

1 活動のねらい

千葉地域農業のけん引役となり得る企業的経営体の育成を目的として、経営改善に意欲ある農業者および女性農業者等を対象に、「経営研修会」を開催しました。

今年度はコロナ禍により、従来のように人が多数集まる会場での研修会やセミナーの開催は困難となったためそれに代わる新たな試みとして、Zoomウェビナーによるオンラインセミナーを実施しました。

2 課題の背景

本研修会は、主に地域のアグリトップランナーを対象に農業経営の向上の一助とすることを目的に改良普及課主催で毎年行われています。今年度は、以前参加者アンケートで要望のあった「農産物のインターネット販売」についての知識と事例を学べるように、販路拡大を希望している農業者や女性農業者等を対象に「講演」と「実践者とのグループワーク」の2本立てで開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染予防対策をとる必要性があったことから、接触の機会を最小限にしながら、様々な立場の生産者に広く参加してもらえる研修会を開催する必要性がありました。

3 普及活動の経過・結果

(1) オンライン形式での開催

当初はYouTubeによるライブ配信等の案も出ましたが、すでに県庁内でZoomウェビナーやプロアカウントの利用も可能になっていたことや、セキュリティ、通信環境などを考慮した結果、Zoomウェビナーによる個人オンライン形式による開催としました。しかし、ネット環境が整っていない農業者も多いことから、サテライト会場を設置してプロジェクターを用いた研修会形式も併用しました。サテライト会場は農業事務所の会議室の他、習志野市、八千代市の協力を得て3か所に設置しました。

主催ホスト側の配信機材については「配付パソコン」「県庁モバイルパソコン」「個人パソコン」の3種類で利便性について検討し、配付パソコンはVDSL経由による通信速度の遅れが心配されること、県庁モバイルパソコンはパワーポイント等のソフト使用について制限があることから、今回は個人パソコンをモバイルルーター(Wi-Fi)に接続して使用方法を採用しました。

研修内容については、あらかじめメール等を通じて参加者への事前アンケートを行い、「こんな農家になっていきたいとの目標や願い」「インターネット販売のイメージ」を把握し、講師とその内容を共有しながら、より参加者の身近に感じられる研修になるように講演内容の調整を行いました。

(2) 当日の流れとその後のフォロー

11月6日、「安心して売れる仕組みづくり」と題した研修は、グループワークの代替として、ウェビナーのQ&A機能を利用した参加者と講師、実践者との対話や、あらかじめ受付ていた事前質問へ回答を通じて、オンラインでも受身だけではない研修会ができました。

参加者の事後のアンケートでは、「顧客リストの重要性が分かった」「実践農家さんのLINE活用術を参考にしたい」といったインターネット販売に対する積極的な意見や、「時間が有効に使えるので、今後もZoomでお願いしたい」といったオンライン方式による開催に好意的な意見も得ることができました。

また今回は、JA等の関係機関の他、管外の農業事務所からのオンライン参加も可能となり、遠距離であっても相互に知識を共有するツールの1つとして役に立つことも分かりました。

反面、サテライト会場や個々の農家とのZoomリハーサルを行うなど、事前に接続環境をチェックする機会を設けたものの、本番当日はID/パスコードでは入室できない参加者がでてしまったり、ウェビナーではミュートなどの制御がしやすい反面、ホストから参加者の顔を見ることが出来ない、等の問題点もありました。当日入室ができなかった参加者に対しては、期間限定で研修会の動画を視聴できるようにするなどのフォローを行いましたが、今後もこれらの反省点を踏まえ、参加者がより利用しやすいオンライン体制に改善する必要があります。



写真1 サテライト会場（八千代市）



写真2 Zoom講演の様子

4 今後の課題

今回、出先機関でのオンライン研修の前例が少ない中で、ネット環境の制限をいかに回避するか模索しながら、また関係機関の協力を得ながらの開催となりました。これからは、県庁内外でのリモート環境がさらに整備されることが予想されます。今後も、新しい手法を取り入れながら、コロナ禍でも農業者が必要としている情報をスムーズに伝達できる体制を整えていきます。

5 担当者 市原グループ 松下 みどり

6 協力機関 習志野市、八千代市